

助の額は小さいわけですが、耕種農家と畜産農家の一つの連携のきっかけになればというふうに評価をしているところがございます。

それから、遊休化、それから小規模の離農につきましても、委員のお考えはそうなのかもしれませんが、私は、大規模農家と小規模農家、それぞれ役割分担があるのではないかなというふうに思います。今後確かに、先ほどの農業委員会事務局長の数字的なところでいいますと、4分の1ほどしか専業と第一種兼業の農家の数はないわけですが、大規模農家につきましても、作付や刈り取り、あと水田の耕起などにつきましても、拡大することは機械力のできるわけですが、そのほかの育苗や施肥や畦畔の除草や水管理などについてはやはり小まめに、小規模農家だけというわけにはいきませんが、全体で取り組むべきものではないかなと私は考えております。そういう意味からしても、切り捨てという考えじゃなくて、お互いに連携をとりながら進んでいかなければならないのかなと。先ほど一番最初に高齢化率の方を説明申し上げましたが、高齢化率がまた進むというふうに予想されるわけですが、やはり地域の農業、だれが担い手になるのだということをもたさらに原点に戻っていただければ、集落営農、それから認定農業者の農地の集積というのは進んでくるところではないかなというふうに私は考えているところがございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 蒲生委員、時間でございます。

○**17番 蒲生吉夫委員** 時間でございますので終わりますが、最後に一つだけ紹介しておきたいと思います。高島町の星寛治さんという方、ご存じかと思いますが、たかはた共生塾の塾長さんになっている方ですね。この人たちは32年前から有機農業をやってきて、農業の中では一番後ろを歩いてきたというんですね。最近

は一番前を歩くようになったと。慶應義塾大学の教授である金子勝さんが取材したやつですね。すごいなと思ったのは、私は、ここ3年間で80人ぐらい都市から住みつき始めているというんですね。ここはやっぱりすごいなというふうに思いました。ぜひ農地や環境を守っていくような農業をきっかけに地域づくりができればありがたいなというふうに思います。

時間ですので、終わります。

町田義昭委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位2番、議席番号7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** おはようございます。先ほどから、きょうのコンディションは寒くもない、暑くもないということで、最高の質問ができるのかなと、そのように思っておったんですけども、いかんせん頭がさえないと、そんなふう感じて、今、困惑しているところがございます。私も還暦を迎えまして、老化現象の始まりかなと、そんなふうで、今、危惧しております。あわせまして、歯にがたがきまして、抜いておりますので、歯切れの悪い質問になるかと思っておりますが、耳を澄ませて聞いていただいて、よりよい答弁をいただきたいなど、そのように思っております。

通告に従って質問させていただきたいと思っております。

きょうは市長、財政課長、文化生涯学習課長、生涯スポーツ主幹というようなことでお願いしたいと思っておりますが、市長におかれましては、3月に十分に議論をやったということでもありますので、必要なければ求めませんので、よろしくお願ひしたいと思います。必要があれば求めていきたいと、このように思います。

また、生涯スポーツ主幹におかれましては、いわゆる特命主幹というようなことで、この道のエキスパートというようなことで認識しておりますので、よりよい答弁がいただけるものと期待しながらお願いしたいと、そんなように思います。また、初めてでありますのでなんていうことをいただいたんですけども、私は決して無理な質問はしないということにしていますので、あわせて認識をいただきたいと思います。

3月の市長の施政方針の中で、道照寺平コミュニティセンターを中心として、その辺一帯をコミュニティの拠点としていくというようなお話をいただいた中で、私はいろいろと議論をさせていただいたはずでございます。その中で、一帯を公園化をしていくというようなことが一番大きなメインであったのではないかなと、そのように認識をします。あわせまして、目黒市長が市長になられて、いわゆる公的施設というのは、道照寺平コミュニティセンターとこれからの伊佐沢のコミュニティセンターの2つと認識をするわけで、とりわけ重要な地位を占める施設でなかったのかなと私は思っていて、いわゆる箱物行政に批判をしながら、しかしながら必要とするものは建設しなければならないというようなことで、建設していただいたわけで、しかも建てるだけでは能がないと、やはり建てた限り、1年を通して利用していく努力をしなければならぬというようなやりとりをさせていただいた中で、市長にも前向きな答弁をいただいたわけでございます。

そのことについて、それぞれ行政執行をしていく形は、当然市長の命を受けて、それぞれの担当課あるいは担当管理職が技術的な面をこなしていくという姿になろうかと私は認識するのでありますけれども、その点について、文化生涯学習課長は、私の考えでよろしいのか、それは違うよというようなことであったら答えていただきたいなと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** お答えいたします。

道照寺平スキー場について、若干の経過を申し上げながら、考え方を申し上げたいというふうに思います。

道照寺平スキー場につきましては、昭和60年にヒュッテとアンバーリフトを設置いたしまして、教育委員会の体育の担当の方が中心になって運営を行ってきたところです。平成13年から14年にかけては、長井ダムから残土いただきまして、グレンデの整備を行ってきて、平成15年からスキー場として供用を行ってまいりました。ただ、昨年度については、皆様ご承知のとおり、のり面の崩壊などがあり、閉鎖したところでございます。

基本的に申し上げまして、スキー場のハード面の整備については教育委員会が行うということでもまいりましたが、長井ダムの残土の受け入れに伴います諸事業につきましては、企画調整課が窓口になって実施してまいりました。

コミュニティセンターの建設につきましても企画調整課が主管して行ってまいりましたが、その運営については当然スキー場なり公園のというふうな観点もございまして、私ども教育委員会が行うというふうな形で現在検討を進めているところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** それぞれ経過についても今説明をいただいたのでありますけれども、あそここの道照寺平のスキー場に関しては、やはり本当に窓口が一本になっておるのかなということについては、ちょっと私は疑問があるなど。今までの経過に関してはね。スキー場に関しては教育委員会だと、しかしながらヒュッテ等については計画されたのは長井ダム推進係であると、あるいは「ようざんろ一ど」で桜の木を栽植された関係は商工であると、あるいはこれからコミュニティ助成事業で花壇を新設されるのは企

+

画調整課が窓口であると、そういうばらばらな状態の中で今まで進められてきたということは事実であろうと思いますけども、その点について、文化生涯学習課長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** ただいま委員からのご質問にありますとおり、確かにこれまでの経過につきましては、企画調整課並びに教育委員会、また、「ようざんろーど」をつくる会の桜の植樹につきましては商工観光課が窓口になってまいりましたし、今年度、これから予定されております花壇の整備については企画調整課が窓口になりましたコミュニティ助成事業というものを活用して、平野地区公民館運営協議会が行うというふうなことでございます。ただ、私どもといたしましては、道照寺平全体につきましては教育委員会が一本の窓口として対応してまいらなければならないというふうに考えているところでございます。

+ ○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 今、力強い答えをいただきましたので、私は納得するわけでありすけども、これからは窓口は教育委員会が一本化して事を進めていくという認識でこれから質問をさせていただきたいなど、そう思います。

2番まで、統一した考えができてののかということでありましたけども、そこまで進んだわけございまして、そこで、生涯スポーツ主幹にお聞きをしますけども、いわゆるコミュニティセンターについて、3月の予算総括の中でいろいろと市長とやりとりした中身について、どのように考えてるかということについてお聞きをしたいなとまず思います。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

ただいま課長からもございましたように、道照寺平の公園化ということも伴いまして、教育

委員会が今後管理を窓口となって行っていくということになるかと思えます。

また、市長と町田委員とのやりとりにつきましても、市長の答弁内容では、今後あそこを公園化として一体的に整備を行いながら、市民の皆さんに楽しんでいただける施設にしたいというふうなことであったかと思えます。私といたしましても、スキー場のみならず、立派な施設ができましたので、あの道照寺平を花公園、またはスキー場、またはトレッキングコース、そういったものを今後も整備を進めながら、多くの皆さんにご利用いただける施設になればいいのかなというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 総体的な計画の考え方というものは納得するわけでありすけども、しかしながら、一つ一つ年次ごとに物事を進めていかないとならないものも当然あるわけでございます。それは漠然としてあそこを公園化していくということについては市長も答弁してるわけで、それを受けて担当課がどういうふうに具現化していくかということについては、私は少し聞いておかないといけないのかなと、そのように考えておるわけで、まずもってコミュニティセンターについて、これ、生涯スポーツ主幹、主幹が中心となってこれから整備計画をしていくと、あるいは相談の窓口になっていくという認識でよろしいでしょうか。その辺お願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

道照寺平につきましては、ダム周辺の環境整備計画に基づきまして、コミセン並びに花公園、花壇の造成というふうなことの構想のもとに、関係課と調整を図りながら、現在まで進めてきたところでありす。今後の整備につきまして

も文化生涯学習課が窓口となり進めなければならぬと認識しておりますが、従来の施設よりも大幅に規模が大きくなりましたので、今後も企画調整課並びに商工観光課等の関係課と十分な連携を図りながら進めていかなければならぬというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 確かにいろんな関係課と調整をしながら進めていくということは了解するんですけども、いわゆる窓口がきちっとなっているのか、いただけないのかということなんですよ。と申しますのは、地域の人たちが相談に行ったりしたりするときに、どこへ行けばいいんだと、そういうものをきちっとしていただかないと、進めていく上にロスが出るのではないかなと思いますけども、その点についてだけお願いしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** 文化生涯学習課が窓口となって今後進めてまいりたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 文化生涯学習課が窓口になっていくということは、それはもうわかっているんですよ。しかしながら、担当が生涯スポーツ主幹の範疇にあるということを知っておりますので、その点についてきちっとしておきたいなと思ったんです。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

大変失礼をいたしました。生涯スポーツ係の方で窓口になって進めてまいります。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** わかりました。よろしくお願ひしたいと思います。

それで、コミセンについてでありますけども、今、あそこ、だれも管理する人がいないので、

スキー場運営協議会の方ですか、その人たちにお願いして、1週間に半日ぐらい換気をしたり、そういうことをしているという話を聞いたんです。ありますけども、実際に来年度以降、それをどのような形に進めていくのかということについて、検討はなされておりますか。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

スキー場の運営とコミュニティセンターの運営につきましては、道照寺平スキー場運営委員会の皆さんと大枠の中で今後お願いしたいというふうなことで、通年型の施設としての運営をしていくという方向であることはお話をしているところであります。ただ、来年度の具体的な運営まではまだお話ししておりませんので、予算要求時期までは方向性を決定いたしまして、お願いを、委託をさせていただきたいというふうに考えているところであります。

なお、通年型ということで、コミュニティセンターの夏季期間の使用につきましては、申し込みを受けてご利用いただくほか、土曜、日曜、祭日に限りまして、フリーの方も施設の一部を利用できるように現在検討を進めているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** スキー場運営協議会に委託をしていくという話は私はしようとは思っていないんです。いわゆる担当課としてどのような基本的な考えを今計画しているのかということについてお聞きをしたいということでありまして、もともとは通年型でなくて、予約を受けて開放しようという計画であったものが、通年型として利用をしていく方法を考えると、土日を開放すると、そういうことは私はお聞きしたいわけで、委託をしていくことについては全然別な話でありますので、そのところをもう1回、きちっとお願いしたいと思います。

+

す。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

今、委員からございましたように、土曜、日曜、祭日に限り、予約を受けないで、フリーの市民の方、または市外の方、訪れた方がコミュニティセンターをご利用できるように、その場所につきましては、センター全体ということではなくて、休憩場所とトイレのご利用をいただければなど、花を見ていただいて、トイレが必要であればトイレに入ってください、または昼食をお持ちの方は中に入ってください、昼食をとっていただくというふうなご利用の仕方を考えております。

なお、その開放につきましては、管理をする方が必要になってくるかと思えます。その部分につきましては、常勤というふうなことではなくて、朝、かぎをあげまして、お昼ごろ一度安全点検の管理をする。そして夕方に閉めていただくというようなことで、非常勤の形で一般的な、その場に突然訪れた方のご利用をいただけないかというふうなことを今検討をしているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 土日、祭日、開放していただけるということでありますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

ただ、管理につきましてはね、それはいろいろな管理の方法があると思えますので、私はどうのこうのは申し上げませんが、ただ、責任のとれるような管理体制を私はつくってほしいなど、そう思えます。責任者がだれもいない中で開放させて、それでどうなのかなと、ちょっと今不安もありますので、やはり管理人を置いてしまうと、そこに当然人件費が生じるというようなことで、そこまで踏み込めなくて担当課はいるのじゃないかなと、そんなふうな思い

ますけども、だれもいない中で開放していいのかわかるのか、そういう点につきましても少し議論をしていただきたいなど、そのように思っております。

次になりますけども、地域の皆さんと話が進んでいるかということでもありますけれども、やはり当然直営ということは考えてないと思えますけども、その点についていかがでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** 今後のコミセンの管理につきましては、委託というふうな形で、あくまでも業務委託ということになるかと思えますが、事務局段階では、道照寺平スキー場運営委員会の方に引き続きスキー場並びにコミセンの管理、業務委託をさせていただければというふうな今のところ考えているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 平野地区のスキー場運営協議会の方に委託をしていきたいというような考えでありますけども、細かい中身については、それは当然向こうの方と話し合いをしていただかなければならないと思えますけども、今までのスキー場の委託は、あくまでもスキー場の委託であったわけですね。それから旧ヒュッテ、そして若干の周りのいわゆる清掃というような範疇であったのではないかなというふうに思えますけども、今後、これからのについては、桜の木は植えている。花壇はある。そしてコミセンの土日あるいは夏休み、そこの開放の管理というようになってくるわけでございますので、当然予算が絡んでくるんじゃないかなと、私、そう思えますけども、今までと同じ負担でやれと言えやらないわけでもないかもしれませんが、それはどうなるかわかりません。しかしながら、当然予算も絡むということになった場合には、どのような考えを持っておられるのか、その点についてお願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。

○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

今、委員からありましたように、今までよりも管理、そして運営しなければならない物件が大変多くなったわけです。そのようなことで、その部分をこれから積算するとともに、18年度のスキー場の業務委託料、その辺も精査をさせていただきながら、十分な管理ができるように、19年度の予算要求に向かっていきたいというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 当然私も予算要求の考え方はということで、19年度予算がもう間もなく始まるわけで、そこできちっとしておっていたかかないと19年度スタートが切れないということになると思いますので、その点についてよろしくお願ひしたいなど、そういうふうに思います。

また、あわせまして、250万円でコミュニティ事業で花壇をつくるわけですね。私は、花壇をつくるというのは非常に結構なことだと思います。また、ありがたいことだと。しかしながら、花壇をつくったということは、それを継続していかないと、公園として成り立たない、なり得ないと、そういうふうに思っているわけで、コミュニティ事業というのは250万円の予算が1回限りで終わるわけですね。その後はさまざまな知恵を出し合って、地域のボランティアとかそうしたものの、利用という言葉は語弊があるんですけども、そうした地域の方々の協力を得ながら進めていかなければならないと思いますし、また、市長もそのように答弁してるんですよね。しかしながら、花壇に永年の花を全部植えるということも私はできないと思いますし、やはり1年草の花も植えていかなきゃならない。そうなった場合に、次の年にまた植えなきゃならない。予算ゼロではね、これはどうしよ

うもないと思うんだよね。この点についても、コミュニティセンターだけでなく、やはり花壇の管理までも含めた、これは私は財政課に対して文化生涯学習課がいかにか説得をできる企画立案をできるかというのに本当にかかっているんじゃないかなと、そのような納得いく、説得力のある計画を出してほしい。それは地域の公園をつくるに、財政課の方で金がないよと、だから無理じゃない、そういうことじゃなくて、私たちは絶対自信を持ってこれを通してもらいたいという企画を絶対やってほしいなど、そういうふうに思ってるんですよ。文化生涯学習課長、ここ、どうですか。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** 委員のおっしゃるとおりだというふうに思っております。私どもといたしましても、今年度つくられます花壇の計画など、詳細に見させていただいて、来年度以降、どのような形で私どもがかかわって整備といえますか、管理運営をできるかということ

+

をこれからきちんと検討をしてみたいというふうに思います。

ただ、道照寺平スキー場、地元の皆さん、これまでも大変お力をいただいております。やはり行政の部分だけではなかなかできない部分もございますので、そういった部分、地元のご協力をいただきながら、いい公園にできればというふうに思っておりますので、あわせてその辺の部分も含めまして検討をさせていただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** よろしくお願ひします。

非常にいい例があるんですよね。この間、産建委員会の市道の廃止、認定のときに、日の出町から緑町まで金井神の方を通って行ったんですけど、ちょうどあそこに、この辺に公園あったなというような話をちょっと藤原委員がされたわけですね。それはもちろんだよということ

で、と申しますのは、58年から62年の間に私も参加して、あそこへつつじを植栽したんですよ。何十本だか忘れましたが、10人、20人、そういうけたじゃなくて、何百人の市民の方々が登ってつつじを植えたんです。それが跡形もなくなっておりますね。しかも知っている人がもはやないと。実際私が参加して植えたんだから、これは間違いないんです。公園というものは、ほっておけばそうなるんですよ。それが物すごくいい例ですので、そういうことでないやっぱり公園をつくってほしいなど。決して金のかかったとか、そういうことではないと思います。あらゆる知恵を出し合っていて、あらゆる地域の皆さんの厚意をいただいて、私は進めてほしいなど、そんなふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** それでは、ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

にまだ水道がつながっていないということで、あそこの利用を始めていないというか、中止しているというふうに聞いておりますけども、水道工事は当然予算化されているはずでございますけども、その点についてどのような状況になっておるのか、また、スキー場開きまで間に合う状況なのか、その辺について、生涯スポーツ主幹の方からお答えをいただきたいとします。

○**渋谷佐輔委員長** 佐藤孝博生涯スポーツ主幹。
○**佐藤孝博生涯スポーツ主幹** お答えをいたします。

給水工事につきましては、企画調整課が主管課となりまして、現在、スキー場オープンに間に合うように、11月30日までを工期といたしまして、進められているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。
○**7番 町田義昭委員** ぜひ計画どおりに進むようお願いを申し上げたいと、このように思います。

先ほどから少しくどい話をしているわけでありまして、やはり公園化というような考えを持って進めるということになれば、当然継続可能な計画であると、そういうものでなければならぬのではないかなと私は思っているんですけども、そうした状況の中で、それぞれの担当課が企画をなされると。しかしながらそれに伴う、別に大幅に予算をふやさなければならないとか、そういうことは私は申し上げていないわけで、しかしながら若干の予算というものを加味していかなければ、維持は難しいのではないかなという一般的な考えを持ってんですけども、その点について、財政課長にお答えをいただきたいとします。

○**渋谷佐輔委員長** 松本 弘財政課長。
○**松本 弘財政課長** お答えいたします。

平成19年度以降の道照寺平コミュニティセンターの整備、利活用の部分につきましては、先ほど来話にありますように、現在担当課の方で

+

午前11時58分 休憩
午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔委員長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

それでは、町田義昭委員の質疑を続行いたします。

7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 午前に引き続き、質問を続けさせていただきたいとします。

去年、ご案内のとおり、のり面が崩れまして、今、その復旧作業に全力を挙げていただいているように思います。この間もちょっと見てきましたけれども、上に上がれないような状態になっておるようでございますけども、間もなくそれがきれいに完成していただければと思いますけれども、水洗トイレになっているわけで、そこ

+

具体的な検討を行っているところのようでございます。したがって、財政課といたしましては、平成19年度以降の予算措置については現在のところ白紙の状態であると言わざるを得ない状況です。ただ、委員ご指摘のように、施設の設置目的等を達成し得る予算措置は、これは当然必要だというふうに考えております。

また、一方では、総論的に言えば、施設の維持管理、運営経費などにつきましては、単発的な臨時の経費と違いまして、経常的な予算措置を必要とするものであると認識しているところでもございます。したがって、歳入が減少傾向にあって、歳出の削減が求められる中で、新たに固定的な財政需要が生じるということは、効率性の追求はもちろんのこと、場合によっては大々的にスクラップされるものも必要になってくるのではないかとこのように考えているところです。

これらのことを総合的に勘案しながら、これからの残された期間、十分に検討する必要があるものであろうと思っております。以上です。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 財政課長の考え方ももつともであるなど私も思います。そうした状況の中で、やはりこれを維持継続していくということを考えるならば、私は、道照寺平そのものを維持していくという考え方もさることながら、3月の我妻議員が質問された中で、白山森スキー場、道照寺平スキー場、全体のスキー場計画の中での予算の配分、シフトの変更と、そうしたものを考えざるを得なくなってくるのじゃないかなという個人的な認識を持っておりますけれども、そのような考え方に対して、財政課長はどのようにお考えでありますか。

○**渋谷佐輔委員長** 松本 弘財政課長。

○**松本 弘財政課長** お答えいたします。

白山森スキー場というふうに限ったお話では

ないと思っておりますけれども、先ほども申し上げましたとおり、総体として歳入が減少する中で、歳出が新たに生じるということであれば、当然スクラップ・アンド・ビルドということを考えなければなりませんので、そういった中身でただいま答弁をさせていただいたところでございますが、その中の一つとして白山森スキー場も当然、従来から俎上に上っているところから、検討の対象としていかなければならないというふうに認識しております。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 今、財政課長の方から答弁いただいたように、やはりそれぞれの担当課におかれましても、そういう基本的な考えが財政課にあるんだということを踏まえて、今後も企画、計画をしていただきたいと、そのように思います。

続いてでございますけれども、最後に市長にお伺いしたいのですが、市長と私が総括質疑でやるのがこれが、総括質疑ではこれが最後になるのではないかなと、そのように考えておるのでありますけれども、

(「12月もあるよ」の声あり)

○**7番 町田義昭委員** 12月はちょっとそこまで、私の方が元気がなくなるかもしれませんので。

やはり市長が公園化構想を打ち出したということは、市長にも4年後、長井ダムが完成した暁には、完成式あるいは竣工式というお祭りが当然なされるわけで、そのときは目黒市長もお呼ばれになるんじゃないかなと、私はそう思っているんですけども、そのときにぜひ道照寺平に帰りに一度登ってみていただきたいなというふうに考えてます。そのときに、私の構想どおりにすばらしい道照寺公園になっているなどという姿を実感できることを私は願っているんですけども、その点について、市長のお考えというよりも、市長の心を言っていいただければ幸いです。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 今、町田委員が言われたとおり、基本的には私もそう思っております。あその、通年でやっぱり花畑もつくって、それからキャンプもできて、それから登山もできると、トレッキングもできるというようになれば、これは観光のまた一つの新たなスポットにもなるわけでありまして、ぜひそうしてほしいということは、企画調整課のダム推進係などを通して、あるいはダム工事事務所などを通して申し上げてまいりました。ダムの方は、花畑とか、市長さんが言われるようなそういう構想は大いに結構だと、最初はつくるぞと、その後の維持管理はぜひ地元を初め市でひとつしっかりとやってくださいよと、さっきのドイツの公園みたいにならないよとということでありましょうし、そういったところは維持管理も含めて文化生涯学習課、それから今のダム推進係、あるいは商工観光課、一つの問題になりますと、一つの課で全部というわけ、窓口は決まりますが、やっぱり連携とっていかなきゃだめなわけでありまして、知恵を出し合って、そして実現がちゃんとできて、維持もできて、しかも余り財政課を悩ませることのないよとということにしていかなければいけないと、そして4年後、もし呼んでいただければ、よかったなと、町田さんと肩をたたけるようにしたいと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 7番、町田義昭委員。

○**7番 町田義昭委員** 構想ができて、これからスタートするわけでありまして、いろいろな難関があることは事実だと思っておりますけれども、決めたことでもありますので、目標に向かって進んでいただければ幸いです。このように思っております。

いろいろくどくど質問を申しあげましたが、わかりやすい答弁をいただきましたことに感謝を申し上げて、質問を終わりたいと思いま

す。ありがとうございます。

我妻 昇委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位3番、議席番号1番、我妻 昇委員。

○**1番 我妻 昇委員** 通告しております2点について順次質問させていただきますので、答弁の方、よろしく願います。

最初に、まず、一般質問でも少し触れさせていただきました特定環境保全公共下水道事業、特環と略しますけれども、このことについてお聞きいたします。

ちょっと確認したいんですが、一般質問では、特環事業と浄化槽事業と比較をして、きちっとした比較ではないですけれども、1,800人で450戸というふう考えた場合ということ、設定をいたしましてお聞きしたわけですが、もう1回確認しますけれども、この450戸を特環でやった場合は19億7,400万円かかるよと、建設費がですね、浄化槽でやった場合は5億4,540万円かかるよとということでありました。それよろしいかどうか。

あと、また、もう一つ、順番違いますが、(2)の方から聞きますけれども、その建設費と、また、今後予想されます処理場ですよね、特環の方では処理場が必要になりますので、処理場の更新時期ですとかその後の耐用年数ですとかね、それに伴う費用をどのくらい見込んでいるのか、建設費はこうで、今言った数字で、処理場の費用はこうだということで、建設課長の方からまずご答弁いただきたいと思っております。お願いします。

○**渋谷佐輔委員長** 浅野敏明建設課長。

○**浅野敏明建設課長** それでは、お答えいたします。